

取扱いの趣旨

過活動膀胱治療剤である抗コリン薬は、添付文書に抗コリン作用を有する薬剤（抗コリン剤、三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、モノアミン酸化酵素阻害剤）を併用した場合、抗コリン作用が増強され、口内乾燥、便秘、排尿困難等の症状が現れるおそれがあることの記載があるため、過活動膀胱治療剤（抗コリン薬2種類）の併用投与は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】

《令和6年4月30日》

109 過活動膀胱治療剤（抗コリン薬2種類並びに抗コリン薬及びβ3受容体作動薬）の併用について

○ 取扱い

- ① 過活動膀胱治療剤について、抗コリン薬2種類の併用は、原則として認められない。
- ② 過活動膀胱治療剤について、抗コリン薬とβ3受容体作動薬の併用は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

過活動膀胱治療剤の抗コリン薬については、コハク酸ソリフェナシン錠（ベシケア錠）の作用機序に、「膀胱平滑筋において、ムスカリンM3受容体拮抗作用を示すことにより、膀胱の過緊張状態を抑制し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する。」と示されている。

しかしながら、併用注意として、抗コリン作用を有する薬剤（抗コリン剤、三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、モノアミン酸化酵素阻害剤）を併用した場合、抗コリン作用が増強されて、口内乾燥、便秘、排尿困難等が現れるおそれがあることが示されている。

このため、抗コリン薬2種類の併用は、原則として認められないと判断した。

また、β3受容体作動薬については、ミラベグロン錠（ベタニス錠）の作用機序に、「膀胱平滑筋のβ3アドレナリン受容体を刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する。」と示されており、抗コリン作用を有する薬剤とは作用機序が異なることから、併用投与については、原則として認められる。

このため、抗コリン薬とβ3受容体作動薬の併用は、原則として認められると判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

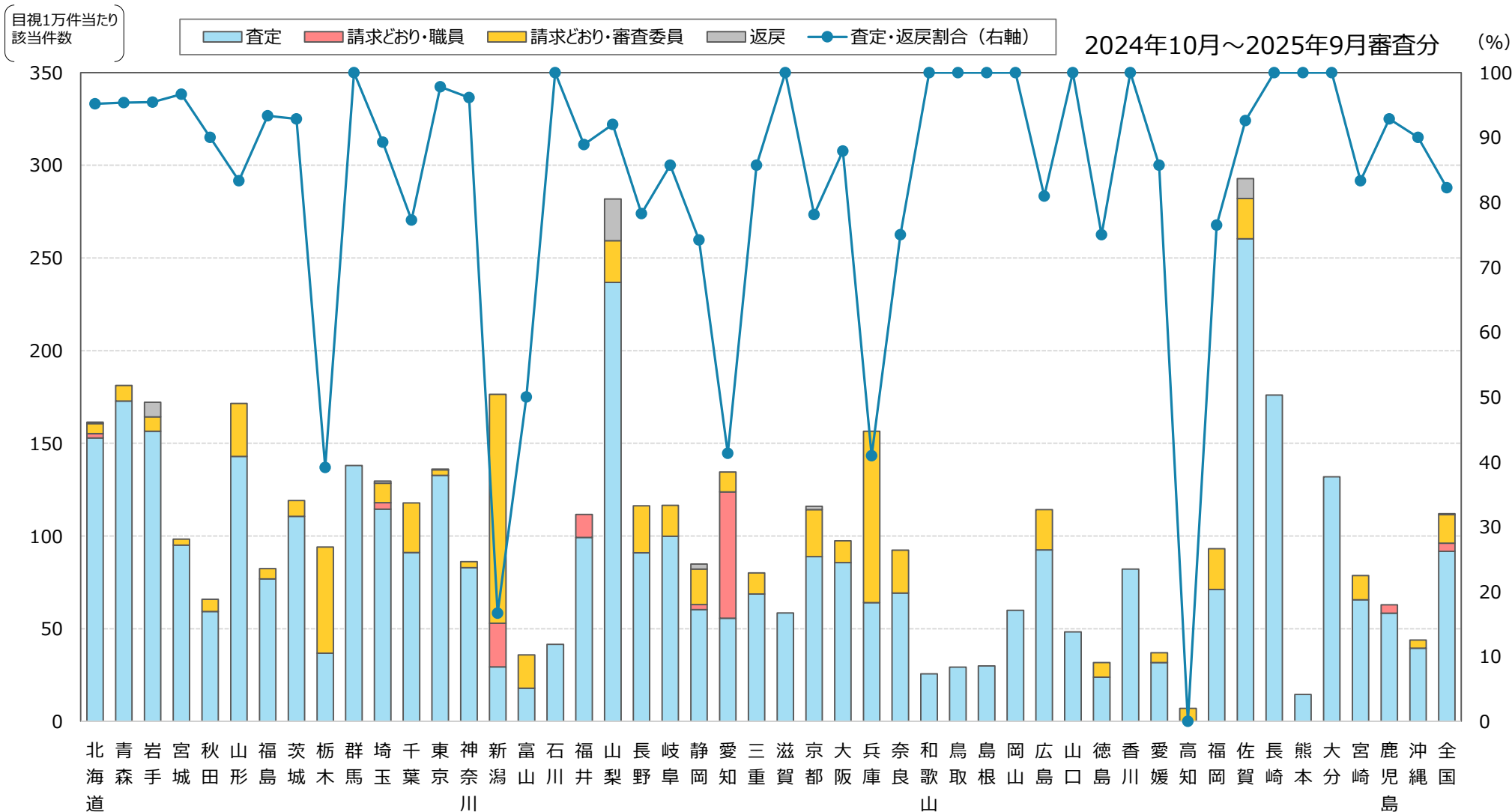
査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 82.24%
- 検証対象都道府県 13

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	新潟、栃木、兵庫、愛知、静岡、奈良、福岡、千葉、京都、長野、広島、山形、大阪	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	愛知、新潟、静岡	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	新潟、兵庫、栃木、山形、千葉、京都、長野、奈良、福岡、広島、静岡、大阪、愛知	//

該当件数（全国）	【条件】	2,213件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	1,820件
検証を必要とする審査	請求どおり	393件



該当件数	208	43	22	30	10	24	15	42	23	31	112	88	318	104	30	4	6	9	25	23	28	31	150	14	11	64	281	149	28	5	2	2	20	42	8	4	12	7	1	68	27	27	3	26	12	14	10	2,213
請求どおり件数	10	2	1	1	1	4	1	3	14	0	12	20	7	4	25	2	0	1	2	5	4	8	88	2	0	14	34	88	7	0	0	0	0	8	0	1	0	1	1	16	2	0	0	0	2	1	1	393

【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数